

2021年3月13日



## 「お久しぶり会」 Part3 万博記念公園で梅林など散策

日増しに春めく3月13日、IINではコロナ禍で三度目の「お久しぶり会」を持ちました。行き先は万博記念公園の日本庭園と自然文化園で、日本庭園では西側に広がる梅林を中心に散策。雨上がりのなか、足の向くまま、気の向くままのお花見でしばし、浩然の気を養いました。



参加者は14人。マスクの上からのぞく目の表情には“コロナ疲れ”の気配はなく、皆さん元気そうでした。

集合時間の11時ごろには心配だった雨は上がり、日本庭園正面から入場。梅林などが広がる西側を散策しました。この日は万博での梅まつり終了前日でしたが、種類が多いだけに紅や白など各種の梅の花を楽しめました。また、一部の桜もつぼみを膨らませていました。

それにしても、日本の造園技術の粋を集めて作られた広大な日本庭園がすぐ近くにあることは、IINの活動にとっても大変ありがたいことと思えました。



梅園の中に「楊貴妃」という名の梅があり、その下で写真に納まるグループも＝写真左。

「深山（みやま）の泉」の近くではシランという花の説明板がありました。この時期は、開花期ではなく、大きな岩の前に50センチほどの緑の葉が伸びているだけ。誰かが「シランってどんな花？」と質問したところ、他の一人が「しらんわ」。

別の一人が「谷村新司作詞作曲の『陽はまた昇る』の歌詞の中にこの花が出てくるよ」と答えると、また、誰かが「しらんかったー」。「歌ってみて」などと、たわいない会話を楽しんでいます。IN に長くいると、いつまでも青春の心を維持できる効果があるのかも？

帰宅後、調べてみると、シランとは紫蘭のこと。ラン科の花で日本に自生。5～6月に赤紫、ピンク、白い花を咲かせる一などと説明がありました。



シラン（紫蘭）

少し歩くと「木漏れ日の滝」。人工の滝とは思えないほど力強い流れで音も自然でした。

英語の説明文によると「木漏れ日の滝」は「Falls in filtered sun light」。

参加者の一人から「filtered sun light? フーン」という声が聞かれました。filter は水や不純物をろ過する言葉と思っていた筆者には「大和言葉の木漏れ日のほうが優雅な表現だ」と思いました。

しかし、これも調べると、filter には、他に光や音が漏れる、通すなど広い意味があることを知りました。

知識不足からしばしば、勝手な感想を持ちがちな自分に反省。

日本庭園の中央休憩所に戻ってから、昼食をとる人と自然文化園内をぐるりと回る「森のトレイン」に乗ってみたい、という人（4人）に分かれました。



日本庭園の休憩所では、参加者たちが弁当を広げると、これを目ざとく見つけたスズメが十羽ほど飛来し、我々から少し前にある手すりに止まりました。観光客がこぼしたり、提供する食べ物を得るのが狙い。最初に2、3羽が人間の様子をうかがった後、床に降りてえさをついばみ始めると、他のスズメたちも次々、床に降りてきました。



休憩所で弁当を食べ始めると目の前にスズメたちの群れが

そこへ、運営委員の一人、Nさんが筆者に近づいて来て「バーチャル写真展のためのシャッターチャンスでは？」と声をかけてくれました。

バーチャル写真展とは、IINの例会で何度かスピーチされているスペイン・カタルーニャ出身のモンセ・マリさんが企画している「勇気」をテーマにした写真展（関西カタルーニャセンター主催・4月23日から）のこと。コロナ・パンデミックの中なので、今回はバーチャルでやるということです。



さて、どっちに行こうか？

小さく弱いスズメたちですが、最初、2、3羽が勇気を出して人間に近づく。それを見ていた他の仲間も一斉に従うという姿は「勇気」をテーマにイケそうなので、同展に出展してみようと思いました。ただ、「それなら、もっと狙ってたくさん撮っておくべきだった」とまた、反省。

一方、「森のトレイン」組（4人）は、乗車の前にまず、腹ごしらえ。イケメンで優しいお兄さんが作ったサンドイッチを買い、ベンチでほおばりました。本格的なエビとアボガドのホットサンドだった、ということです。



十月桜

その後、チューリップ花壇や梅林を抜け、トレイン出発地の中央ゲート付近に戻り乗車。

途中、数千本の桜の木立の中にかわいく咲く十月桜を見つけて写真を撮ったり、万博開催当時についての車内説明を懐かしんでいました。季節の変わり目で、時折吹く冷たい風だけが玉に瑕だったようです。



おいしそうな  
サンドイッチ

メンバーたちは「万博おひさしぶり会 Again もありですよねえ」と大いに楽しんだ様子でした。

自然文化園の梅園には松の木も植えられ、背後には竹林を配して「松竹梅」を表しているとのこと。説明文をよく読むと、いろいろ、工夫が込められていることがわかりました。



これが森のトレイン

老梅の中には幹や枝が黒く奇怪な感じの曲がり方をしているものが多いのに、いつまでも可憐で美しい花を咲かせていることに感心しました。



Takeshi Hashimoto  
記